

# 認知症の経過と対応

認知症を引き起こす疾患や身体状況などにより経過は異なり、必ずしもこのとおりの経過をたどるわけではありませんが、この先の経過の中で大まかな位置を知り、今後を見通す参考としてください。

	ひょっとして認知症かも？	認知症があっても日常生活はほぼ自立	誰かの見守りや指示があれば日常生活はなんとか自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要	
本人の様子 (見られる症状や行動の例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● もの忘れをしても、本人にその自覚がある。</li> <li>● 「あれ」「それ」「あの人」など代名詞が増える。</li> <li>● ヒントがあれば思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 買い物やお金の管理等にミスが増える。</li> <li>● 同じことを何回も聞く、探し物が増える。</li> <li>● 失敗が増えて、意欲や自信が減退する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 料理などの段どりができなくなる。</li> <li>● 時間や曜日だけでなく、季節や年次もあやふやになる。</li> <li>● 慣れた道でたびたび迷うようになる。</li> <li>● 感情の起伏が激しくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 着替えやトイレ等がうまくできなくなる。</li> <li>● 財布などを盗られたと言い出す(物盗られ妄想)</li> <li>● 自宅がわからなくなる。</li> <li>● 時間・日時・季節がわからなくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 寝たきりで過ごすことが増える。</li> <li>● 言葉によるコミュニケーションが難しくなるが、感覚は残る。</li> <li>● 飲み込みが難しくなり食事に介助が必要になる。</li> </ul>	
やっておきたい・決めておきたいこと (ご家族などが取り組めること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 認知症を予防するための規則正しい生活を心がける。</li> <li>■ 高血圧や糖尿病などの生活習慣病を管理する。</li> <li>■ 認知症を身近な病気として関心を持つ。</li> <li>■ 今後の生活設計(お金の管理、介護等)について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ かかりつけ医や地域包括支援センターに相談する。</li> <li>■ ミスや失敗を責めず、本人の不安を和らげる。</li> <li>■ 近親者などに伝えておく。</li> <li>■ できるだけ本人の興味をひく活動をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医療のほかに介護保険などの支援についても知識を得る(相談する)</li> <li>■ 役割を取り上げるのではなく、本人ができない部分を周囲が支援する。</li> <li>■ 地域の人に知らせ、見守りを依頼する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 家族だけで支えようとしないで、介護保険などの公的サービスなどを積極的に利用する。</li> <li>■ サービスの利用で介護する人の心身の負担を軽くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自宅での生活を継続するか、施設入所にするかを考える。</li> <li>■ スキンシップなどのコミュニケーションを工夫する。</li> <li>■ 終末期(看取り)に備える。</li> </ul>	
認知症の人を支援する体制等	相談	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">運転免許の返納を考えましょう。</div> 【地域包括支援センター/在宅介護支援センター】 【認知症初期集中支援チーム】 【介護支援専門員(ケアマネジャー)】				
	予防のための活動	【元気なからだづくり隊・ミニデイサービス(高梁地域)・生きがいデイ・通所型サービスB】 介護予防のための通いの場 【ふれあいサロン・コミュニティカフェ・老人クラブ】 交流やサークル活動ができる通いの場 【認知症カフェ】 認知症の人やその家族、地域の人、専門職等の交流 【シルバー人材センター・おたすけ隊・いきいき生活サポーター】 知識や経験、技術を活かして活躍できる				
	医療・介護	【かかりつけ医】 受診して相談する、診断を受ける 【認知症疾患医療センター さきがけホスピタル】 認知症について専門的な治療、相談ができる 【通所介護・通所リハビリテーション】 通所でレクリエーションや入浴、食事などのサービスを利用できる <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">要介護認定の申請を考えましょう。</div> 【訪問診療、訪問看護】 自宅で医療や看護を受ける				
	生活支援(利用できる制度)	ひとり暮らしができる		ひとり暮らしが難しくなる		生活に手助けや介護が必要になる
		【おたすけ隊】 簡単な生活サポート 【シルバー人材センター】 庭の手入れ等日常生活のサポート				
		【給食サービス】 食の確保、見守り 【移動販売】 買い物支援				
		【いきいき生活サポート事業】 軽微な生活援助		【訪問介護(ホームヘルパー)】 家事などの生活援助、排泄などの身体介護		
		【福祉移送サービス】 身体障害や高齢で通院等に困る場合のドア to ドアの移送サービス				
				【居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護】 ケアマネジャーによるサービス導入などの生活調整		
	住まい	【愛育委員・福祉委員・民生委員・認知症サポーター・オレンジサポーター等】 訪問・見守り 【緊急通報システム・みまもりネットワーク・位置情報サービス利用】 安否確認、行				
		【短期入所生活介護・短期入所療養介護】 家族の急な出来事等による短期間の宿泊サービスの利用				
		【家族介護者交流事業】 【認知症カフェ】 【認知症サポーター】 【チームオレンジ】 本人、家族への支援				
【日常生活自立支援事業】 お金の管理や福祉サービスの利用手続きに不安がある人の支援		【成年後見制度】 物事の判断ができなくなった人への支援				
	【住宅改修】 住みやすい住宅の整備		【特別養護老人ホーム・介護老人保健施設】 介護を受けられる施設			
	【ケアハウス】 見守り付きの施設		【認知症グループホーム】 家庭的な雰囲気の中で共同生活ができる施設			
	【有料老人ホーム・介護付きケアハウス】 有料で介護を受けられる施設					

## 認知症に関する相談先・問い合わせ先

☆高梁市地域包括支援センター ☎0866-21-0300

- // 成羽ステーション (☎0866-42-3211)
- // 川上ステーション (☎0866-48-2200)
- // 備中ステーション (☎0866-45-2211)

### ☆かかりつけ医

病院名		医師の名前	
所在地		電話番号	

### ☆担当のケアマネジャー

事業所名		ケアマネ名前	
所在地		電話番号	

### ☆高梁地域の認知症疾患医療センター

病院名	さきがけホスピタル		
所在地	高梁市落合町阿部2200	電話番号	0866-22-8300

## 行方不明が心配な時の早期発見のための取組

### 高梁市みまもりネットワーク事業

認知症の人の日常的な見守りと、行方不明になったときに早期発見に役立つ取組です。

地域包括支援センターで事前に情報を登録する

行方不明発生!



家族から高梁警察署へ連絡  
高梁警察署  
0866-22-0110

承諾があった事項について、関係機関へ情報提供し早期発見につなげる

行方がわからなくなったら、迷わず

高梁警察署 0866-22-0110 へ



## 《高梁市認知症ケアパス》

## もの忘れ? うまくつきあうための手引き

あれ? どうしたんだろう? 気になったらチェック!

### 認知症のサイン

- 何度も同じことを言ったり、聞いたりする
- おき忘れやしまい忘れが多くなった
- 知っているものの名前が出てこなくなった
- 財布がいつも小銭でパンパンになっている
- 見だしなみに気を使えなくなった
- 料理や洗たくの段どりが以前のようにうまくできなくなった
- 趣味に関心をみせなくなった
- ささいなことで怒りっぽくなった など



### ○まずはかかりつけ医に相談しましょう

不安があるときは、まずはかかりつけ医に相談してみましょう。あなたの身体状況や病歴、普段の様子も把握しているので、いつもと様子が違うことなどに気が付いてもらいやすいです。また、高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」に相談してみるのも良いでしょう。



### ○かかりつけ医の紹介により専門医に受診しましょう

かかりつけ医により認知症の疑いがあると判断された場合には、必要に応じて専門医（認知症疾患医療センター）を紹介してもらえます。

### ○受診する時のポイント

できるだけ家族が付き添いましょう。認知症の症状のあらわれ方には個人差があり、お医者さんの前では比較的是っきりと受け答えができる場合もあります。ありのままの姿を伝えるために、日頃からどのような症状が出ているのかをメモしておきましょう。

